

日本語教育機関の告示基準に基づいて、本校は、毎年、教育水準の向上と適切な業務運営を継続させるために自己点検・自己評価を行っております。その結果を以下のとおり公表します。

2026年3月10日

MJ 日本語教育学院 学院長 張 麗波（北島麗佳）

2025年度 自己点検・自己評価項目

1：達成している 2：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 4：取り組みを検討中 5：改善が必要

1 教育の理念・目標

評価 1

学校の理念・教育の目標・育成する人材が明確か、社会のニーズに合うか。それらが適切であるかを学期（6ヵ月）ごとに職員会議等によって点検を行なっているか。

<現状・具体的な取り組み／課題>

- ① 高いレベルの日本語コミュニケーション能力を育成することをめざしている。非漢字圏の学生が大多数のため、学生は漢字の読み書きの習得には苦勞しているが、着実に力をつけ、令和七年度は卒業生 54 名のうち 48 名が大学・専門学校等へ進学した。その他の 5 名については、就職、帰国、結婚等により在留資格の変更・手続き完了後に進路が確定している。在校生がよりいっそうの力をつけることができるように、会議において教員同士の情報交換を行い、授業研修によって教育レベルの向上をはかっている。
- ② 相互尊重と理解を持つ国際的に優秀な人材を育成し、国際社会に適応する素質の高い人材を育成すること、多文化の共存を促進することをめざしている。本校ではネパール、ベトナム、スリランカを出身とする学生が共に学び、交流を深めている。教材および授業、課外授業によって多文化共存の意義を教え、また日本の文化とじかに触れ合う機会を作っている。
- ③ 職員会議議事録、個人授業資料により、教員間で理念・目標の共有を図り、理念・目標に基づいた実践が行われたことが確認できる。

2 学校運営

評価 1

運営体制が日本語教育機関の告示基準を満たしているか。組織運営財務管理等の決定システム・コンプライアンス制度が整備されているか。組織変動や人事異動等が発生した場合、遅滞することなく関係官公庁に届出るとともに、日本語教育機関の告示基準を更新している。

<現状・具体的な取り組み／課題>

- ① 運営体制は日本語教育機関の告示基準を満たしている。
- ② 組織運営財務管理等の決定システム・コンプライアンス制度は整備されている。
- ③ 組織変動や人事異動等が発生した場合、遅滞することなく速やかに関係官公庁に届出している。

3 教育活動

評価 1

教育理念に沿っての教育活動を行っているか。教員の指導力や課程の質を改善するために努力しているか。

＜現状・具体的な取り組み／課題＞

- ① 「実践的で確かな日本語能力及び高いコミュニケーション能力を育成」に向けて、カリキュラムと教材についての改善を継続的に行っている。全クラスに対して「日本語教育の参照枠」を踏まえ、『できる日本語』（初級、初中級、中級）を体系的に導入し、レベルに応じた実践的な学習を行っている。非漢字圏出身の学生については、読み書き能力の習得状況を把握し、必要に応じて個別指導を行うなど、基礎言語力の定着にも重点を置いている。
- ② 教員間における教育理念および指導方針の共通理解を深めるため、定期的にミーティングと講師会を実施している。授業記録および出席簿については正確に管理し、学生の学習目的、試験結果、学習状況等の情報を教員間で共有することで、指導の一貫性や質の向上を図っている。
- ③ 課題：実践的な日本語能力育成に向け、引き続き日本語による体験型課外活動（地域交流、企業訪問、文化体験等）を増やし、学習者が実際の場面で日本語を使用する経験を積むことが求められる。また、地域や市内で行われる伝統行事等への参加を促進し、学校としても地域との連携を強化することで、学習者の日本語使用場面の拡大を図る。

4 学習成果

評価 2

在校生の日本語力が向上しているか。

＜現状・具体的な取り組み／課題＞

取り組み

「できる日本語」のテキストの使用により、学生の口頭でのコミュニケーション力に成果が見られている。一方で、読み書き能力の伸長が十分ではなく、技能間のバランスに課題が見られる状況である。進学に向けて日本語能力試験（JLPT）や日本留学生試験（EJU）等の各種試験の必要性を認知させ、その上で試験合格を目指すカリキュラムの整備を進めている。

課題

コミュニケーション力と読み書きの調和を図り、総合的な日本語運用能力の向上を実現する必要がある。また、日本人との関わりが少ない学生に対しては、授業で習得した「できる」の内容を日常生活の中で活用し、達成感を得られる場面を増やす。さらに、JLPT 合格率の向上を重要な教育指標の一つとして位置づけ、目標設定と進捗管理を体系的に行う。定期的な模擬試験の実施と結果分析を通じて、学生一人ひとりの課題を明確化し、必要に応じて補強指導を実施することで、弱点の早期改善を図る。これらの取り組みにより、学習成果の可視化と学習意欲の向上を促し、JLPT 合格率の安定的な向上につなげる。

- ①教員と事務職員が連携して在校生情報を共有し、在校生の学習相談・進路相談を実施しているか。
- ②防災・緊急時対応の体制が整っているか。

<現状・具体的な取り組み／課題>

① 情報管理・システム活用について

これまで、学生数の増加に伴い、事務職員が留学生管理システムを活用し、学生情報を迅速に更新・共有する体制を整えてきた。今年度はさらに、教職員を対象としたシステム利用研修を実施し、現在では各教職員が担当学生の基本情報だけでなく、成績、出席状況、指導記録等を随時システムに入力・更新し、教職員間で共有することが定着している。これにより、学生情報の把握と連携がより迅速かつ正確になった。

② 日本での生活ルールの教育・防犯指導について

新入生入学後すぐに、各国版の『外国人在留マニュアル』や『教室ルール』を用いて、日本での生活ルールの教育を行ってきた。今年度は、入学時のオリエンテーションに加え、各期末試験後の時間を活用し、3 か月に 1 回、日本での生活ルールの教育を実施する体制が定着し、内容もより充実している。防犯面では、引き続き管轄の八王子警察署と連携し、日本社会で安全に自立した生活を送るための指導を行っている。

③ 学習・生活・健康面のサポートについて

生活面および学習面では、ネパール語およびベトナム語が可能な教職員を含め、学生一人ひとりに丁寧な指導を行っている。休日や長期休暇中も、電話や SNS で対応できる体制を維持している。出席率の重要性を常に強調し、欠席時には本人から学校へ直接電話連絡を行うよう指導している。遅刻や欠席が確認された場合には、教職員が速やかに連絡し、必要に応じて母国語も用いて指導を行っている。今年度は留学生管理システムを最大限に活用することで、学生の状況をより早く把握できるようになり、進路に迷いがある学生や、出席率が低下傾向にある学生については、担任と事務職員が連携し、早期に面談を実施している。進路ガイダンスや相談会は、これまで同様、必要に応じて担任が随時実施している。健康面については、引き続き学生の体調管理に留意し、八王子市保健所とも密に連携するとともに、外出時の安全意識についても、3 か月に 1 回の説明会で強調している。

④ 防災・緊急時対応体制について

本校では、防災・緊急時対応体制の整備を目的として、防火・防災管理者講習に継続して参加し、教職員の防災に関する知識および緊急時の対応力の向上を図っている。また、課外活動の一環として立川防災館における社会見学を実施し、学生が日本における防災意識や災害発生時の行動について、体験的に学ぶ機会を設けている。さらに、管轄である八王子消防署と連携し、学校行事として避難訓練を実施することで、教職員および学生双方の防災意識の向上に努めている。消防用設備については、管理会社に委託し、機器点検および総合点検を年 2 回実施するなど、法令に基づいた適切な維持管理を行っている。今年度は、これらの取り組みに加え、学校規模に応じた防災用品の備蓄を行い、校内防災体制の充実を図った。気象警報発令時には、教職員間で情報共有および状況確認を行った上で、学生用連絡ツールを通じて速やかに周知している。また、前日には注意喚起や休校等に関する連絡を行い、学生が安全に行動できるよう配慮している。

⑤ 今後の課題について

学生の安全を第一に考え、より簡便かつ迅速に安全を確認できる体制を継続的に強化していく。

6 教育環境

評価 1

①施設・設備の安全性・環境設備は整っているか。

②学習に必要な教材等は整っているか。

<現状・具体的な取り組み／課題>

- ① 施設・設備は告示申請内容の通り、増員に伴い学生用ラウンジを新たに設置し、学習・交流の場を充実させた。また、新設教室には視聴覚機器を一新し、より効果的な授業運営が可能となる教育環境を整備した。安全性や環境設備に関しては、これまでと同様に定期的な点検を実施し、その報告書（添付資料 1）を作成した。
- ② 教師用図書と学生用図書は、引き続き目録を作成し管理を行っている。また、この 1 年間に購入した書籍についても追記し記録を更新した。教材の種類や量について、学習者の多様なニーズに十分対応できるよう、必要なジャンルやレベルの教材環境の充実を求めている。

7 入学者の募集

評価 1

募集案内と入学案内の規定によって適切に募集しているか。海外において過大宣伝をせず、忠実に当学院の特徴を PR し、規定された金額以外の費用徴収を厳禁することを徹底しているか。

<現状・具体的な取り組み／課題>

- ① 募集案内に従って学生募集を行い、仲介機関に対してもその内容を徹底し、教育目標に合致し、学生の受け入れを進められるように指示している。
- ② パンフレットやホームページの記載事項は募集内容と一致している。
- ③ 学生が来日する前の面接と入学選考を強化している。

8 財務

評価 1

中長期の財務が安定しているか。

<現状・具体的な取り組み／課題>

当校は 4 階建て自社ビルを所有しており、校舎は 2 階と 4 階部分を使用している。1 階及び 3 階は他社と賃貸契約しており（1 F：Faraday Factory Japan 合同会社（コイル製造）、3 F：有限会社シティーソフト（IT 関係））、賃貸収入もあるため、財務については安定している。

入管法等の法律を遵守しているか。入学時に丁寧なオリエンテーションを行い、定期的に職員会議により最新の法律情報（改正変化等）の学習や在校生を対象とするホームルーム等を実施して、法律等の知識を周知させているか。

<現状・具体的な取り組み／課題>

取り組み

- ① 告示基準に従い、東京出入国在留管理局に定期的な届出を行った。
- ② 本校では、入管法をはじめとする関係法令を遵守するため、入学時に新入生を対象とした丁寧なオリエンテーションを実施している。オリエンテーションでは、在留資格に関する注意事項、資格外活動、出席率の重要性、学校規則、日本での生活上のルール等について説明を行い、学生が法律を正しく理解し遵守できるよう指導している。また、各国語版のオリエンテーション資料を配布し、学生の理解度向上を図っている。警察講習については地域警察を招いて実施している。（添付資料 2）
- ③ 教職員については、定期的な職員会議を通じて、入管情報を共有し、学校全体での理解を深めている。さらに今年度は、外部研修として、申請取次研修、認定日本語教育機関に関する実務説明会、結核予防講習会等に職員が参加し、法令および関連制度に関する知識の向上を図った。研修内容は職員会議等で共有し、実務に反映させている。

課題

職員が定期的に外部研修に参加し、最新の法律・制度情報を入手すると共に、職員会議等で共有を図る体制作りを継続的に強化していく。

日本語学校の資源などを利用して、地元八王子市の祭りに参加するなどの社会貢献をしているか。日本語学校の運営について地元住民からの理解を得ているか。

<現状・具体的な取り組み／課題>

- ① 学校は引き続き「地域に望まれる日本語学校」を目指し、「北八町内会」に加盟し、地域との交流活動を継続している。
今年度は、2 階改修工事の影響によりイベント数はやや減少したものの、地域行事への参加を促進している。特に「北八まつり」については、学生が積極的に参加できるよう、チラシ配布や授業内での紹介を行い、盆踊り練習場所の案内など具体的な支援を行った。また、北八町内会福祉部門からの教室レンタル相談にも対応し、地域活動への協力を行っている。
- ② 近隣住民との交流を深めるため、町内活動のチラシ（地域イベント、ボランティア活動等）を配布し、学生が積極的に地域活動へ参加するよう努めるとともに、日常的な挨拶の励行を指導してきた。今年度はさらに、学生への指導を徹底し、加えて、区域内外でのタバコの吸い殻を発見した際には拾うなどの美化活動を行い、地域環境への配慮にも努めている。

《添付資料》

1. 学校施設の確認報告書（項目 6 教育環境）
2. オリエンテーション・警察講習の実施

2026 年 3 月 10 日

理 事 長 張 麗波（北嶋麗佳）

学 院 長 張 麗波（北嶋麗佳）

教務 主任 西野博子

専任 講師 青木久子

島崎妙子

ザナティ早苗

事務 局長 古海静香

事務 職員 菅原道子

サパナ マハトハ

学校施設の確認報告

以下の通り、学校施設の点検を行った。問題がない項目に◎をつけた。

1. 告示申請時の設備に変更なし ◎
2. 各教室の整備
 - ①窓の開閉は安全に行える ◎
 - ②照明器具は正常に稼働する ◎
 - ③エアコンは正常に稼働する ◎
 - ④椅子・机に故障がない ◎
 - ⑤視聴覚機材（パソコン、プロジェクター、スピーカー、CDプレーヤー）は
正常に使用することができる ◎
3. トイレ等水回りの設備は正常に使用できる ◎
4. 図書室・ラウンジは正常に使用できる ◎
5. 保健室は正常に使用できる ◎
6. 登下校時の建物内学生通路は安全が確保されている ◎
7. エレベーターの保守点検がきちんと行われている ◎

2026年3月10日

オリエンテーション・警察講習の実施

① オリエンテーション

対象者	実施日	担当	参加人数	備考
2024 年 4 月生	2025 年 07 月 25 日 2025 年 09 月 19 日 2025 年 12 月 19 日 2026 年 03 月 04 日	古海 菅原 ガー (ベトナム) サパナ (ネパール)	全員	前年度実施済 2 年度分 (3 か月 1 度)
2024 年 10 月生	2025 年 07 月 25 日 2025 年 09 月 19 日 2025 年 12 月 19 日 2026 年 03 月 04 日	古海 菅原 ガー (ベトナム) サパナ (ネパール)	全員	前年度実施済 2 年度分 (3 か月 1 度)
2025 年 4 月生	2025 年 04 月 16 日 2025 年 07 月 25 日 2025 年 09 月 19 日 2025 年 12 月 19 日 2026 年 03 月 04 日	古海 菅原 ガー (ベトナム) サパナ (ネパール)	全員	

② 警察講習

	実施日	担当	参加人数
2025 年 4 月生	2025 年 07 月 23 日	菅原	全員

2026 年 3 月 10 日